ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

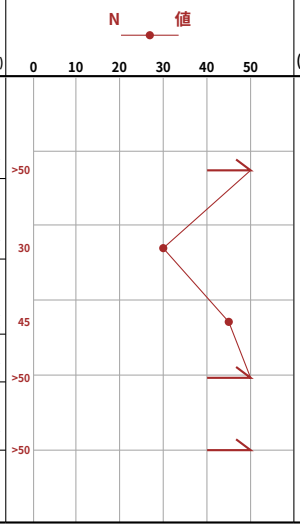
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	BV-7	調査位置						北　緯	36 ° 20 ’ 33.8501 ”
発注機関	栃木県足利土木事務所			調査期間	2005-09-20 ～ 2005-09-23			東　経	139 ° 26 ’ 24.0120 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	56.62 m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 17.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	5.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
	56.37	0.25	0.25		表土 (SF)	黒褐			礫混じり粘性土。植物片やチャート角礫混入し、やや有機質を呈す。		
1	55.25	1.12	1.37		礫混じり粘性土 (C-G)	暗褐			崖錐堆積物で、礫混じりシルト～粘性土。 礫はチャート角礫でφ1～5cm。 基質の含水は低く、締り緩い。		
2	53.17	2.08	3.45		チャート (Cht)	黒灰～淡褐			亀裂発達する。比較的新鮮堅硬で1.6mまで片状コア、2.8～3.45m間で短柱状～片状コアを呈する。また、この区間で岩級区分はCH級に属する。 1.6～2.8m間は風化著しくコアは土砂状を呈し、やや粘土化する		09/28 3.40
4	51.62	1.55	5.00		チャート (Cht)	黒灰			比較的新鮮で堅硬。60度の亀裂目立つ。 短柱状のコア形状で、岩級区分はCHに属する。 4.25～4.45mに1cm厚の褐色粘土が挟在。 RQDは3-4m：21、4-5m：57		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	測定月日
1.15	15	13	22／2	50／22	>50	09/20
1.37						
2.15	7	12	11	30／30	30	09/21
2.45						
3.15	13	14	18	45／30	45	09/22
3.45						
4.00	50			50／10	>50	
4.10						
5.00	50／0			50／0	>50	09/23
5.00						



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日